

感染症対策

感染症
(インフルエンザ)



小谷 洋子 先生



高齢者施設や障がい者施設で蔓延しやすい感染症

- インフルエンザ
- ノロウイルス
- コロナウイルス
- 食中毒
- 疥癬



インフルエンザ

- 目やのど等の粘膜に付着する
- 付着してから約20分程で体内に入る
- 体内に侵入し、24時間後には1個から100万個に増える
- A型・B型・C型がある
- ウイルスは乾燥した低い温度の環境下で長生きする
- 温度約7℃、湿度約20%の場合、ウイルスの生存率は約60%



インフルエンザの特性

- A・B・C型の3種類
- A型が感染力が高い
- 高齢者の場合、典型的な症状（高熱と全身倦怠感）を示すことなく、長引く微熱や呼吸器症状のみを呈する場合がある



感染経路

- 飛沫感染
- 接触感染



ハイリスク

- 65歳以上の高齢者
- 妊娠している方
- 慢性呼吸器疾患
- 慢性心疾患
- 糖尿病などの代謝性疾患
- 腎機能障害
- ステロイド内服などによる免疫機能不全



インフルエンザの予防

- 予防接種後、効果が出るのに2週間程度かかる
- 咳エチケットや手洗い
- アルコール消毒が有効
- 適度な湿度の保持。室内を適度な湿度（50～60％）に保つ
- 十分な休養とバランスのとれた食事(栄養)をとる
- 人混みや繁華街への外出を控える



罹患した場合

- 早めに受診をする
 - 熱が出てから12時間経過後、ウイルスを検知できる
 - ハイリスクに該当する者は12時間待たずに受診を推奨
- 安静にして、しっかりと寝る
- 水分をしっかりとる
- スポーツドリンクやスープなどを飲む



- インフルエンザの感染経路
- インフルエンザの予防や注意点

感染症対策

感染症
(ノロウイルス)



小谷 洋子 先生



ノロウイルスとは

- 口から入って激しい嘔吐（おうと）や下痢（げり）を起こす
- ヒトの腸管内のみで増殖する
- 感染力が強く、少量（10～100個）でも発症する
- 経口感染、接触感染、飛沫感染など、感染ルートが複数ある
- ノロウイルスに一度感染した人でも、繰り返し発症・感染する可能性がある
- エンベロープ(脂質からなる二重膜)をもたないため、消毒用エタノールによって不活化されにくい



主な症状

- 体内にウイルスが入ってから、24～48時間以内に激しい嘔吐や下痢、腹痛が発生。ときには発熱、頭痛、筋肉痛を伴う
- 症状は1～3日続くが、後遺症は残らない
- 1日に複数回の嘔吐・下痢を呈することで、脱水症状になることがある
- 自覚症状がなくなってもウイルスが混じった排せつが続く事がある



汚物処理のポイント

- 感染防止用具の着用（マスク・手袋・ガウン）
- 立ち入り制限 最小限の人数で対応
- 十分な換気
- 効果的な消毒
- 広範囲の清浄
- 十分な手洗い



感染予防

- 手洗い
- 掃除
- 二枚貝等の食品の取り扱いに注意
- 二枚貝等の場合は食品の中心部が85℃～90℃で90秒以上の加熱が必要

施設のマニュアルに従って
正しい感染予防をする



- ノロウイルスは感染予防がとても大切

感染症対策

感染症
(新型コロナウイルス)



小谷 洋子 先生



コロナウイルスとは

- コロナウイルスは自然界に50種類以上存在している
- 人に感染するのは6種類＋新型コロナウイルス（COVID-19）



感染経路

- 飛沫感染
- 接触感染
- エアロゾル感染
 - 空気中に浮遊するウイルスを含んだ微小粒子を吸い込んで感染すること



主な症状

- 咳・息苦しさ（呼吸困難）
- 強いだるさ（倦怠感）
- のどの痛み
- 頭痛
- 嗅覚・味覚障害



注意して観察

表情・外見

- 顔色が悪い
- 唇が紫色になっている
- いつもと様子が違う

意識障がいなど

- ぼんやりしている
- もうろうとしている
- 脈のリズムに乱れがある

呼吸の状態

- 息が荒くなった
- 息苦しくなった
- 日常生活で、少し動くと息苦しい
- 胸に痛みがある
- 横になれない/座らないと息がしづらい
- 肩で息をしている



感染予防

- 予防接種は効果が出るまで2週間かかる
- 飛沫・接触感染予防/咳エチケット/手洗いを徹底する
- 外出後の手洗い アルコール消毒は有効である
- 適度な湿度の保持（50～60％）をする
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取(食事)
- 人混みや繁華街への外出を控える



対応方法

- 感染者と非感染者は部屋を分ける(施設ではゾーニングを実施)
- 感染者の世話は限られた人にする(ウイルスを持ち出す機会を減らす)
- マスク/手洗い/換気をおこなう
- 共用部分は次亜塩素酸ナトリウム液で消毒をする
- ごみは密封して捨てる
- 感染していない人も検温をおこなう



- 正しい情報を収集し、適切な対応方法をとる
 - 注意して観察する
 - 感染予防をする

感染症対策

感染症 (疥癬)



小谷 洋子 先生



疥癬とは

- ヒゼンダニがヒトの皮膚の表面に寄生して生じる感染症
- ヒトの皮膚に巣を作り、増殖することで、かゆみなどの症状が生じる
- 感染経路は接触感染が考えられる



通常疥癬の主な症状

- 腹部、胸部、腋窩、大腿内側などに赤い湿疹が散在する
- 激しいかゆみができる
- 男性の外陰部に小豆大、赤褐色のしこりができる
- 疥癬が治った後もかゆみが残ることがある
- 手関節、手掌、指間、指側面などに好発部位があり、疥癬トンネルができやすい。疥癬トンネルの特徴は線状の皮疹である



ノルウェー疥癬(100万匹～200万匹)とは

- 皮膚が厚くザラザラになり、全身に生じることがある
- かゆみが出る場合と出ない場合がある
- 免疫力の低下が原因で起こる(全身状態の低下、ステロイド薬の誤用、高齢者など)



感染経路（接触感染）

- 肌と肌との直接接触による感染
- 寝具の共有などによる感染



- 疥癬の主な症状と特徴について
- 正しい感染予防の対策をすることが大切

感染症対策

日常生活で気を付けること (観察)



小谷 洋子 先生



観察

- 日頃からバイタルサインを測定し、正常時の数値と比較する
- 食事量の比較
- 排せつの回数と性状
- 活気はあるか
- 発症者とのかかわり
- 内服薬の確認

正常時との比較で異変を早期発見することが大切



早期発見のための日ごろの観察ポイント

観察点	具体例
便の症状・回数	続く軟便、水様性の下痢や血便がある場合
発熱の有無	明らかな発熱 微熱でも発疹・嘔吐・下痢・のどやリンパ腺の腫れをともなう
皮膚の状態	湿疹、発赤、発疹
目の状態	眼脂、結膜の充血、涙目、眼瞼腫脹
耳の状態	耳だれ
口の状態	口内炎
痰の状態	色・量の変化
床ずれ	大きさ・色・においの変化
その他の異常	嘔吐、ひどい咳、食欲がない



すぐ報告！

主な症状	要注意のサイン
発熱	<ul style="list-style-type: none">● ぐったりしている● 意識がはっきりしていない● 呼吸がおかしいなど全身状態が悪い
嘔吐	<ul style="list-style-type: none">● 強い吐き気や胸焼け
下痢	<ul style="list-style-type: none">● 便に血が混ざる● 尿量が少ない、口が渴いている
咳・咽頭痛・鼻水	<ul style="list-style-type: none">● 熱があり痰がひどく絡む● 咳がひどい
発疹（皮膚の異常）	<ul style="list-style-type: none">● 体幹、四肢の関節の外側、骨の突出した部分など、圧迫や摩擦が起こりやすいところに牡蠣殻状の厚い鱗屑が見られる



職員として意識すべきこと

- 自分の健康管理（感染源、媒介者にならない）
- 感染に対する知識の習得と日常業務における実践
- 利用者の健康状態の把握
- 感染対策は利用者の安全管理で極めて重要であり、利用者の安全確保は施設・事業所の責務



- 感染症が発症したときの観察点や対応方法について

感染症対策

日常生活で気を付けること (食事)



小谷 洋子 先生



食事の場面で気を付けること

- 手洗いをする
- テーブル・イスなど食堂の触れる部分の消毒・清掃する
- 食品を適切に管理をする
- おしぼりやタオルは共用しない
- 脱水症状がある場合の水分補給の方法
- 食後に口腔ケアをする
- 食べやすい食事を提供して体力を維持する



脱水症状がある場合の水分補給の方法

- 常温
- 少しずつ
 - 500ml/ 1時間
- 塩1.5g (小さじ1/4) 砂糖20g (大さじ2)
 - お好みで柑橘果汁少々



ハイポトニック飲料を積極的に摂取しよう

ハイポトニック飲料とは

ナトリウムや糖質の濃度が低めで、ヒトの安静時の体液よりも低い浸透圧の飲料のこと



- 食事の場面で気を付ける感染症対策
 - 体内に菌・ウイルスを入れない
 - こまめな水分補給
 - ハイポトニック飲料を積極的に摂取する

感染症対策

日常生活で気を付けること (入浴・清潔)



小谷 洋子 先生



日常生活で気を付けること(入浴)

- 浴室の掃除をする
- 掃除で使用する器具は、使用する度に消毒をする
- 脱衣所を清掃して清潔を保持する
- 足拭き用のバスマットは共用しない
- 浴室は定期的に換気をする



日常生活で気を付けること(清潔)

- 陰部や臀部のケアをする
- 利用者にあった排せつケアをする
- 陰部・臀部のケアをおこなった後は、保湿ケアをする



- 感染症を広げないために、入浴場面においても清潔ケアが必要である

感染症対策

日常生活で気を付けること (排せつ)



小谷 洋子 先生



日常生活で気を付けること(排せつ)

- 1ケア1手洗い
- 陰洗ボトルは1人1本で使い回ししないことが望ましい
- オムツ台車は車輪にウイルスや細菌が付着する可能性がある
- 使用済のおむつ・ペーパーナプキン・手袋はその場でビニール袋に密封する
- 尿路感染症を防ぐため、バルーンパックの正しい取り扱いを理解する



尿器・陰洗ボトルを洗浄する際は水はねに注意する
(必要に応じガウン・フェイスシールドなどを着用し洗浄する)



バルーンカテーテル

バルーンカテーテルは膀胱より下に配置する
排出口は清潔にする必要がある





- 日常の排せつケアで注意するポイントについて
 - 1ケア1手洗いをする
 - バルーンカテーテルの位置は膀胱より下に配置する